



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

J R東日本労働組合
発責 教育・広報部
2021年3月1日 No.289

シリーズ2021春闘⑤

力を合わせて!!



3月1日に第1回団体交渉を開催！ 要求満額回答を求め、組合側より趣旨説明を行う

<組合側の現状認識>

- ・「新しい生活様式」に代表されるように、人々の価値観が大きく変わる時代の変化点を迎えている。しかし、J R東日本が運行する列車は安全、かつ安定的に走るとの価値観は変わっていない。お客さまの「あたり前」を実現しているのは、J R東日本グループで働くすべてのJ R労働者一人ひとりの努力に他ならない。
- ・経営側が効率化施策を進める中であって、施策を担うのは私たちJ R労働者であり、施策の目的と現場実態との「現実の乖離」という苦勞の矢面に立たされるのもJ R労働者である。
- ・会社業績が赤字であることは十分認識している。しかし、基本給改定は単年度の業績だけで決定する性質のものではない。
- ・「黒字化」にむけては、J R労働者の「衣、食、住、育、介」に憂いなく安心して業務に集中できる環境が大前提だ。働く者が納得したワークライフバランスが整い、J R労働者が心身ともに健康な状態で働くことで生産性がさらに向上し、品質や安全性の向上、業績回復、そして新たな「変革2027」の数値目標の実現にむけた努力につながる。
- ・J R労働者が一丸となって、現場第一線で等しく業績回復などにむけて奮闘しているにも関わらず、2020年度の期末手当は大きく削減された。J R労働者の「衣、食、住、育、介」に対する不安は尽きない。

<春闘要求の趣旨>

- ・鉄道業においては、基本的に専門的な知識や技術を習得して、初めて仕事ができる業務体制である。今ある「安全・安定輸送」は、J R労働者個々の経験の積み重ねや技能の向上によって確保されているといえる。定期昇給の実施と4係数の実施を強く求める！
- ・コロナ禍、赤字下において、職制や職種に関係なくJ R労働者は等しく奮闘している。この間のいわゆる格差ベアは、社員一丸となって困難な現状を乗り越えようとする決意や思いに水を差す行為である。まして今年度は赤字業績を予測しており、黒字下ではない。中長期的な経営見通し、経営環境の変化に対応するJ R労働者の奮闘、生産性向上に対するJ R労働者の貢献、生活環境の変革および物価上昇を踏まえた生活保障、年齢に応じた生計費の水準を考慮要素として「社員一律」による3,000円のベースアップとエルダー社員の基本賃金を「一律」による3,000円の引き上げを求める！
- ・「第二基本給」は、若い社員ほど退職時の算定額への影響が大きくなるなど、あまりにも理不尽な制度である。会社発足から間もなく丸34年目を迎えようとする今日、導入目的や制度の趣旨をみたときに「第二基本給の使命は終えた」といえる。「第二基本給」の廃止を求める！
- ・コロナ禍、そして赤字下におけるJ R労働者の奮闘に対して優劣はない。2021年度の賃金改定においては一部社員が対象となる特別加給を実施せず、その原資を1円でも多く、すべての社員に配分すべきだ！